RHELのサブスクリプション管理

2021-03

この資料の位置づけ

• 多くのLinux技術者にとっておそらく最もなじみがないRHEL 特有の要素である、サブスクリプション管理に関連する技術や概念について、概要と関連資料を紹介します

目次

- なぜサブスクリプションを管理するの?
- サブスクリプション管理
- エラータの通知
- 登録したシステムやサブスクリプションの管理
- サブスクリプション管理の登場人物
 - subscription-manager
 - virt-who
- 典型的な利用例
- 関連ドキュメント

なぜサブスクリプションを管理するの?

- RHEL購入時に交わされる契約Enterprise Agreementでは、サービスレベル、ソフトウェア種別、ハードウェアアーキテクチャ、システムの用途(ユースケース)、システム数、vCPU数、物理サーバのソケット数などをルールに従って数え、サブスクリプションを購入する必要があります。この資料で紹介するサブスクリプション管理はこのルールを実装しています。
 - 所有しているサブスクリプション以上のシステムを構築したり増設すると、契約違反になってしまいます。**契約違反を予防するため**、サブスクリプション契約とシステムの対応づけをおこない管理する仕組みが実装されています。
- 資産管理や契約管理の一環として有用です。

サブスクリプションの数や種類については「Red Hat Enterprise Linux サブスクリプション ガイド」をご確認ください

https://www.redhat.com/ja/resources/red-hat-enterprise-linux-subscription-guide

サブスクリプション管理

- サブスクリプション管理は、Red Hatのコンテンツ配布の仕組みと連携しています。 システムヘサブスクリプションを紐付けると、yumでのパッケージ取得が利用できま す。
 - Red Hat サブスクリプション管理ドキュメント https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_subscription_management/1/
- サブスクリプション管理を利用することは**必須ではありません**。
 - 諸事情によりサブスクリプション管理のしくみを利用しない場合、単に関連するソフトウェアの起動を**停止したり、アンインストールすることが可能です**。
 - 標準のyumリポジトリは使えないため、rpmパッケージを別途ダウンロードするなどの工夫が必要です。
 - 契約違反を防ぐためには別途何らかの手段で管理する必要があります。

エラータの通知を取得する

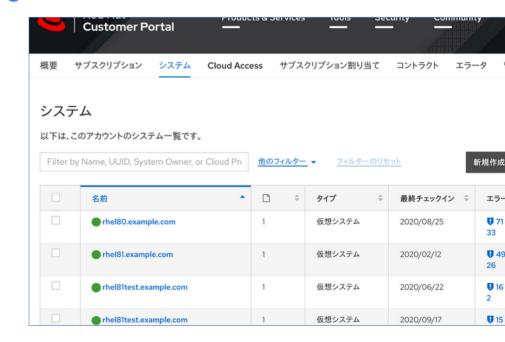
- サブスクリプションを登録した製品にソフト ウェアの修正が出荷された場合に、メールで通 知を受けとることができます
- ログイン後errata notificationsを設定します https://www.redhat.com/wapps/ugc/protected/notif.html
- 「Red Hat Subscription Management (RHSM) からエラータの警告や通知を取得する」 https://access.redhat.com/ja/solutions/382673



Errata notifications Your information Red Hat customers can receive er Personal known as errata. Errata notificatio Change password After making your choices, you Postal address Your preferences Language & location **RED HAT SUBSCRIPTION MAN** Errata notifications Notification control Errata notification emails are disa O Enable notifications for the sel Security updates Bug Fix Enhancement Disable all errata notifications Notify me when Errata affects systems on my a Receive a notification when a p errata. More Info Errata affects my subscriptions Receive notification when a sul **Notification frequency** Immediate Daily summary Weekly summary

登録したシステムやサブスクリプションの管理

- システムやサブスクリプションを管理します
 - https://access.redhat.com/management/
- 登録したシステムは4時間毎に チェックインを行い、状態を 同期します
- 各システムのエラータ数や その内容も確認できます



サブスクリプション管理の登場人物

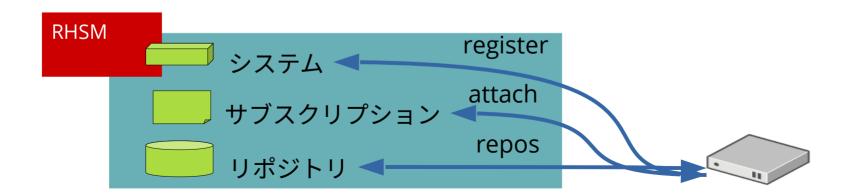
• Red Hat側

- Red Hat Subscription Management(RHSM): 契約,サブスクリプション,システム などを管理します
 https://access.redhat.com/management/
- Red Hat CDN: rpmパッケージを配布します。cdn.redhat.com
- ・ お客様環境側
 - プログラム: subscription-manager, rhsmcertd, virt-who
 - 関連製品(この資料では扱いません): Red Hat Satellite Server

subscription-manager

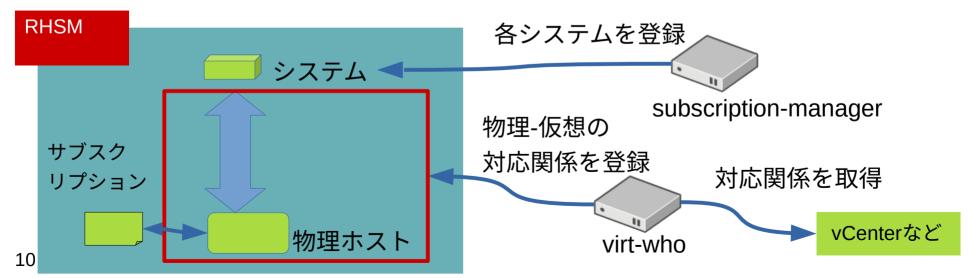
subscription-managerはシステム、サブスクリプション、リポジトリの登録・対応づけを管理するコマンド。

```
# subscription-manager register →システムを登録
# subscription-manager attach →システムにサブスクリプションを紐づけ
# subscription-manager repos →リポジトリの利用有無を設定
```



virt-who

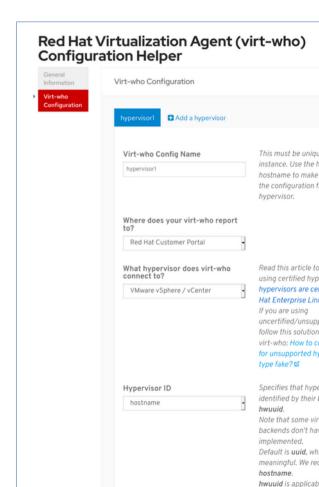
- 特定の物理ホスト上で仮想マシンを無制限に構築してよい製品(Virtual Datacenter 等)があります。これを利用する場合、物理ホストと仮想マシン上のシステムの対応関係が必要になります。
- virt-whoはRHELが入った各システムと、物理ホストの対応関係を追跡します。



Red Hat Virtualization Agent (virt-who) Configuration Helper

virt-whoの設定ファイルをウィザード形式の 入力で自動生成するツールを提供しています

https://access.redhat.com/labs/virtwhoconfig/



典型的な利用例

製品ダウンロード・導入

システム登録

サブスクリプション紐づけ

リポジトリの有効・無効化

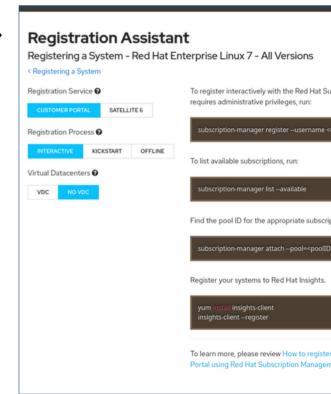
製品ダウンロード・導入

- 通常、インストール完了後にシステムの登録をおこないます
- RHEL 8.2から、OSのインストーラ内 "Connect to Red Hat" からシステムの登録と対応づけを行えるようになりました。
 - 比較的小さいISOイメージ boot.iso と、Red Hat CDNから必要なパッケージだけをダウンロードするので必要なダウンロード
 量を減らせます

システム登録

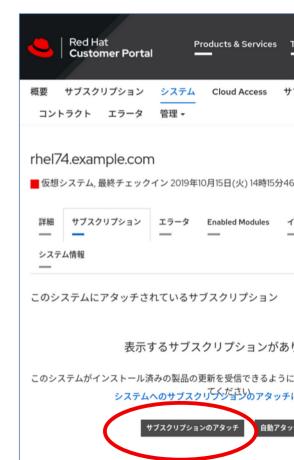
- rootユーザで subscription-manager を実行して登録します。
- 必要なオプションなどはカスタマーポータ ルのRegistration Assistantで環境を指定する ことで手順が表示されます

https://access.redhat.com/labs/registrationassistant/



サブスクリプション紐づけ

- RHELを1種類だけ持っているなどシンプルな場合
 - root で subscription-manager attach --auto を実行すると、導入 されている製品を利用可能なサブスクリプションと自動で対応づけられる
- 複数種類の製品を持っているなど複雑な場合
 - カスタマーポータルのWeb UIからサブスクリプションのアタッチを実施 できる
 - https://access.redhat.com/management/systems/
 - コマンドラインでは以下のように操作する
 - 1. 利用可能サブスクリプションを一覧 subscription-manager list --available
 - 2. 紐づけしたいpool IDを指定 subscription-manager attach --pool pool ID



リポジトリの有効・無効化

- RHELは複数のyumリポジトリがあり、デフォルトでは有効ではないリポジトリがある
 - バイナリrpm以外の、debuginfoやsourceなどのリポジトリ
 - Ansible Engineのリポジトリ
 - サポートされないが利便性のため提供されるリポジトリ
 - Red Hat SatelliteやRed Hat Storageなどの関連製品利用時のみ必要なリポジトリ
 - アドオン製品
- subscription-managerではどのリポジトリを有効・無効とするか指定できる
 - 例: subscription-manager repos --enable=rhel-7-server-eus-rpms

ナレッジ「Red Hat Subscription Manager (RHSM) を使用してリポジトリを有効にする方法」 https://access.redhat.com/ja/solutions/649723

関連ドキュメント(1/2)

- ナレッジ「Red Hat Subscription Management の使用を開始する」
 RHSMで登場する概念や、実装で利用される証明書まで含めた詳しい紹介です
 https://access.redhat.com/ja/articles/3221791
- Red Hat Subscription Managementドキュメント
 - RHEL の簡易登録: 基本的・典型的な登録方法
 - **Red Hat Subscription Management の使用および設定**: RHSM全般
 - Red Hat Subscription Management での仮想マシンサブスクリプションの設定: 仮想マシンの登録とvirt-whoの設定

https://access.redhat.com/documentation/en-us/red_hat_subscription_management/1/

関連ドキュメント(2/2)

- Red Hat Enterprise Linux ドキュメントのInstallingカテゴリ https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_enterprise_linux/8/
 - **標準的なRHELインストールの実行**: インストールメディアの作成、インストーラでの各種指定、Subscription Managerによるシステムの登録とサブスクリプション割り当て、トラブルシュート
 - **RHEL システムイメージのカスタマイズ**: 各種仮想化環境および パブリッククラウドむけ仮想マシンイメージの作成方法

まとめ

- なぜサブスクリプションを管理するの?
- サブスクリプション管理
- エラータの通知
- 登録したシステムやサブスクリプションの管理
- サブスクリプション管理の登場人物
 - subscription-manager
 - virt-who
- 典型的な利用例
- 関連ドキュメント

backup slides

アクティベーションキー

- システムの登録、サブスクリプションの紐づけ、サービスレベル の指定をまとめて行うためのキーワードを作成できます
 - リポジトリの指定は別途行う必要があります
- 組織IDとアクティベーションキーだけで、Red Hatのログイン情報を使わずに登録作業をおこなえるため権限分離にも有用です

利用方法はナレッジ「Red Hat カスタマーポータルのアクティベーションキーを作成する」

https://access.redhat.com/ja/articles/3040881

auto-attach とは?

- ドキュメントを読んでいると、動作がよくわからない用語「autoattach(自動アタッチ)」がでてきます
- auto-attachは、システムに対応づけたサブスクリプションが無いまたは 有効期限が切れる場合に、自動的に利用可能で製品に適合するサブスク リプションをシステムに紐づける仕組みです
 - サブスクリプションが失効してしまうケースを予防します
 - 場合により期待と異なるサブスクリプションが紐づけられる場合があります
 - auto-attachを使いたくない場合にはシステム毎に無効化できます